

【施策それから】 ◎ 早期発掘で五輪選手輩出＝東京大会に修了生出場― 富山県

21/08/31 07:30 KP009

富山県と県体協が取り組む「未来のアスリート発掘事業」は16年目を迎え、東京五輪に初めて修了生が出場するなど、スポーツ選手の育成に着実に成果を挙げている。

同事業は、「2000年とやま国体」で高まったスポーツへの関心や競技力の維持向上を目的に策定された「富山県新世紀スポーツプラン」の一環として、05年に開始。「成長のゴールデンエージ期」とされる小学5年の育成を小学校卒業までの間サポートする。プログラムでは、身体能力の強化に加え、試合で最大限に能力を発揮できるよう、栄養学やメンタルトレーニングを学んでもらうことが特徴だ。これまでの参加者は計1025人に上る。

先の東京五輪には、1期生で女子ハンドボールの佐々木春乃選手や、4期生で男子バスケットボールの八村塁選手ら計4人が出場。東京五輪に出場した県出身者らはこれまでの五輪で最多の14人に達した。県スポーツ振興課の担当者は「成果は出てきている」と手応え十分。修了生には教員やコーチとしてスポーツに携わる人も多数おり、早くから幅広くスポーツの知識を底上げすることが「スポーツリーダー」の育成にもつながっている。

一方で、アスリートに求められる資質は時代とともに大きく変化している。県体協によると、近年ではフェアプレーに代表されるような誠実さがこれまで以上に重要になっているという。また、教職員の働き方改革を踏まえた部活動の地域移行が進んでおり、これらの状況を反映させた地域ぐるみでのスポーツ振興の環境整備なども今後の課題だ。

県体協の担当者は「東京五輪を一つの区切りとし、地域の競技団体と連携を強めてプログラムの変更も検討していきたい」と意気込みを語った。（了）

（2021年8月31日／官庁速報）

※本印刷物は時事通信社 iJAMP サービスから印刷されました。

Copyright JJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.